

副市長	桐谷 雅宣君
教育長	永留 和博君
総務部長	有江 正光君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷 和孝君
しまづくり推進部長	武末 祥人君
観光交流商工部長	二宮 照幸君
市民生活部長	俵 輝孝君
福祉保険部長	古里 正人君
健康づくり推進部長	荒木 静也君
農林水産部長	佐々木雅仁君
建設部長	小島 和美君
水道局長	波田 安德君
教育部長	阿比留裕史君
中対馬振興部長	佐伯 正君
上対馬振興部長	森山 忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川 昌浩君
峰行政サービスセンター所長	田村 竜一君
上県行政サービスセンター所長	原田 勝彦君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	松井 恵夫君
監査委員事務局長	御手洗逸男君
農業委員会事務局長	庄司 智文君

午前10時00分開議

○議長（小川 廣康君） おはようございます。

ただいまから議事日程第4号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（小川 廣康君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は2人を予定しております。それでは、届け出順に発言を許します。6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） おはようございます。今回は、私の質問は、9月定例会の一般質

問の再質問となりますので、よろしくお願ひいたします。

1点目は、生ごみ回収事業について、当初の計画と目的、また、その成果について、具体的に説明をお願ひいたします。

2点目は、市長名で突然に11月分の広報に挿入されておりました、生ごみに対するアンケート調査のお願ひということで、市長名で全世帯に配布されておられます。このことについて、その目的についてお伺ひいたします。

以上2点でございます。よろしくお願ひいたします。

○議長（小川 廣康君） 2項目め、対馬島誌は。

○議員（6番 吉見 優子君） 済みませんね。それと、対馬島誌の問題ですけれども、これは、もう前からしたら、もう55年たっておりますので、そろそろという、この前9月の17日、私たち女性団体の会議で、市長と語ろう会ということで9月の17日にしたところ、その中の会議の中から、この対馬島誌について、もう55年もたつから、ぜひとも次のものを発行すべきじゃないかなということが出ましたので、それも含めまして、よろしくお願ひいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。吉見議員の御質問にお答えいたします。

生ごみ回収事業についてでございますけれども、本事業の目的は、簡潔に申し上げますと、生ごみを資源として活用し、焼却施設における省エネルギー対策と温室効果ガスの排出抑制の推進でございます。

この温室効果ガスについては、世界的な問題として捉えられ、1992年に国連気候変動枠組条約が制定されております。その目的は、大気中の温室効果ガスの増加が地球を温暖化し、自然の生態系などに悪影響を及ぼすおそれがあることを人類共通の関心事であると確認し、大気中の温室効果ガスを安定化させ、現在及び将来の気候を保護することであり、気候変動がもたらすさまざまな悪影響を防止するための取り組みの原則、措置などが条約に定められております。

その後、1997年の京都議定書、2015年のパリ協定、今現在、12月2日からスペインで25回目のCOP25が開催されております。

我が国では、1998年に地球温暖化対策推進法が制定され、2000年に循環型社会形成推進基本法が、2001年に廃棄物の処理及び清掃に関する法律等が整備され、ごみの排出抑制、資源化の推進、適正処理などの目標が定められ、国、地方公共団体、事業者、国民それぞれに対して、これらの施策に対して努めなければならない責務が示されております。

本市におきましても、対馬市一般廃棄物処理基本計画を策定し、資源ごみ、燃えるごみ、粗大ごみなど、12分類の分別を市民の皆様に御協力をいただき、ごみの資源化の推進、適正処理に努め、ごみの減量化及び焼却施設の経費削減に努めているところでございます。

このような取り組みの中で、さらなるごみの発生抑制を図るため、燃えるごみとして焼却している生ごみを分別回収し、堆肥として有効に活用することで、焼却施設の経費削減並びに二酸化炭素の排出量削減に努めるため、2017年より、平成24年になりますけども、生ごみ、廃食油の分別収集を実証実験的に開始しております。

アンケートについてでございますけども、さきの第3回定例会におきまして、分別方法のさらなる徹底や収集体制等について検討を進めると申し上げておりました。その取り組みの一つといたしまして、生ごみに関するアンケートを実施させていただきました。

この調査の趣旨は、生ごみに対して市民皆様がどのように考えておられるのか。本事業をどう思われるのか。また、現在、分別に御協力いただいている皆様から、分別回収の現状把握と今後のあり方などについて御意見を伺い、本事業をよりよい方向へ展開し、市民皆様とともに取り組んでいけますよう、多くの意見を集約いたしたく、全戸調査を実施させていただいているところでございます。

近ごろでは、環境問題に対するさまざまな報道がなされており、これらの問題解決は早急な対策が求められております。今、一人一人ができることを行動に移していかなければならないと考えております。

今後におきましても、ごみの発生抑制や資源化を推進し、ごみの減量化による経費削減と温室効果ガスの原因となる二酸化炭素の排出削減を図るため、本事業は重要な施策と捉えておりました。アンケートによる意見を考察しつつ、継続して取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 吉見議員の対馬島誌の発行についての御質問にお答えいたします。

対馬島誌は、昭和3年に対馬教育会によって編さん、発行されたものを昭和15年に改訂、昭和48年に増訂され、販売されました。それと前後して、昭和39年、新対馬島誌が、対馬教職員組合内の新対馬島誌編集委員会によって非売品として発行されております。いずれも、当時の教職員を中心とした対馬の歴史研究者の方々によって、編集、発行されたものでございます。

また、近年では、平成21年に対馬国志が、対馬国志刊行委員会によって発行されております。

これらは、いずれも民間から出されたもので、行政が発行しているものは、合併前の旧6町それぞれの節目の年につくった各町の町誌があり、資料編や教育史などを発行している町もございます。

合併後の対馬市誌の編集につきましても、今後の市政運営の上で検討すべき時が出てくるかとは思いますが、現時点で対馬島誌、新対馬島誌の後にくる対馬の歴史資料としましては、旧町時

代に出されました各町誌などを御活用いただければと存じます。

これらの本は、現在まだ在庫がある分に関しましては、対馬観光物産協会でも販売いたしております。残念ながら、在庫がなくなった本や非売品に関しましては、つしま図書館で閲覧していただきたくお願い申し上げます。

なお、対馬市教育委員会が発行している書籍につきましては、平成22年に発行した対馬市の文化財、平成23年に発行し、29年に増版した「あのころの対馬」がございます。こちらの活用についてもよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 今、生ごみの関係でございますが、私が聞き間違うとったら失礼しますが、経費削減と二酸化炭素について言われたと思いますが、生ごみの堆肥化についても言われましたですかね。きょう言われてない。何ですか、それは。お聞きします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） もちろん生ごみの堆肥化も重要な案件でございますけども、この事業の目的ということでございますので、この生ごみの資源化の中に堆肥化も入るというようなことで、私たちは答弁させていただいております。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） このアンケートにつきまして、一番大事なのは生ごみ、市民が興味持っているのは生ごみということで、主婦は一生懸命、生ごみを今出されている。初めの目的は、生ごみが一番のメインやったと思いますが、それが今何かうやむやになっているような答弁。具体的に生ごみ堆肥化というのがうたわれてないちゅうのがすごく残念なんですけれども、そこ辺をもう一つお聞きしたいと思いますが。

生ごみに対するアンケート調査の中でも、生ごみの堆肥化が1番に掲げてありますよ。それなのに、なぜ生ごみの堆肥化が言われないのか、本当に不自然でなりません。そして、クリーンセンターの経費削減と二酸化炭素の排出量の削減ということであってありますので、そこ辺で不思議に思います。

生ごみの堆肥化について、現在どのようになっているのかお聞きいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどから申し上げますように、堆肥化は資源として、生ごみを資源として活用するというので、先ほども答弁させていただいておりますので、このことにつきましては御理解をお願いしたいというふうに思います。

そして、今現在、生ごみのほうは、この前まで1,839世帯の方に参加していただいております。

ましたけども、この12月10日現在では、そのときよりも81名ふえまして、現在1,946名の方に参加をいただいている状況でございます。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 今言われました、30年度末関係で1,839世帯の生ごみ回収をしているということで、それはこの前も言うておりました。だけど、これは平成24年から始まっている中で、この7年間で申し込みされておった中で、亡くなられた人、それとか転勤された人、そしてまた、もうこの生ごみを出すもせわしいや、もう可燃ごみで出そうちゅうて、もうずっと出されてない人、かなりおられると思います。

これを私は一つお願いなんですけど、今現在1,839世帯ということですが、この分析をしていただきまして、本当の申込数を調べてほしいと思います。それはお願いしときます。

それと、堆肥化についてですけども、これが一番のうたい文句だったと思いますけど、何かうやむやに、資源としてとか、具体的な名前が出ないのが本当残念でございます。堆肥化について、いろいろ調べてみましたし、この前の、今さっき言いました女性団体の話のときでも、市長は生ごみとしてはまだ堆肥化にはなっていないという説明をされておりましたので、そこ辺を素直に言うてほしいなと思います。それが一つですね。

それと、経費削減についてでございますが、経費削減といいましても、経費削減は結局は燃料費等が言われておりますが、新しい生ごみ処理場についても経費がかかります。それとか委託料、それとか維持管理費、新しいところですね、それとバケツ購入費とか、もろもろも含めて、経費削減という言葉については、決して経費削減にはなっていないし、毎年、四千二、三百万の経費がかかっております。それは経費削減には全くなってない。そういうことを指摘しますが、そこ辺も含めて、どのようにお考えなのか教えてください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、この生ごみの回収によります燃料関係での削減額が、今現在、約1,000万円ということになっております。それとまた、この施設等の堆肥化施設の維持管理費も確かに900万ちょっとかかっております。

それと、この参加世帯に提供いたしますバケツでございますけども、バケツも、平成24年から平成30年まで、これまでに購入した経費が約1,500万ほどかかってはおりますけども。

特にこのバケツの経費につきましては、当初のほう、平成25年、そしてまた26年、27年が、約それぞれ500万程度ずつ予算としては使っておりますけども、最近、平成29年度、30年度では、それぞれ9万3,000円、2万2,000円というふうに、当初のほうに3,000世帯を大きな目標としておりましたので、その時点でバケツ等は買い込んでいたというようなことになっております。

確かにそれらを総計しますと、それが果たして削減になっているのかというようなことでございますけれども、あくまでも、この燃料消費額等を少しでも図っていくことが、今度また安神の処理場等の施設の長期運用も含めて必要であろうというふうに捉えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 今お伺いしますと、安神クリーンセンターの運営するのに必要だろうということですが、それとこれを相殺してもらったら大変困ることで、安神は安神でしょう。そして、また新たにこの施設をつくられたわけですから、それと相殺してもらわなくちゃいけないと思いますよ。

それで、結局は生ごみの堆肥化については、いまだに使用することはできない、完成してないちゅうことでよろしいでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 生ごみの堆肥化につきましては、成分分析をしておりますけれども、なかなかまだいい堆肥ができてないというところは事実でございます。今後は、この堆肥につきましても、他の成分等を少し加算して、まぜながら、よりよい堆肥の製造に向けて努力をしていきたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 生ごみの堆肥化については、いまだちょっと完成してないちゅうことで。

2番目の削減につきましても、私が今さっき言いましたように、クリーンセンターのほうの光熱費は統計とってありますが、一応1,000万から800、それぞれありますが、それと比べて、今さっきも言いましたように、同じように、新しくつくった生ごみ焼却の関係の生ごみ施設に対する経費は、同じ経費だと、お金だと思しますので、そこら辺の考えたときは、物すごく経費はかかっていると思います。

3番目の二酸化炭素排出量の削減につきましては、これは、私もクリーンセンターに3回ほど行って、いろいろとお伺いしてまいりましたが、まずは二酸化炭素の排出量は計測してないということでした。どんなものでも、燃やせば二酸化炭素ができます。しかし、二酸化炭素を吸収している、二酸化炭素が、樹木、木が二酸化炭素を吸収して、酸素を出して空気を浄化しておりますということでございます。

ですから、この二酸化炭素の削減については、全くこれは関係ないという言い方おかしいかもしれませんが、削減は結局、対馬は、こんなふうに対馬のことだけ考えてはいけないんでしょうけれども、こんなふうの木が二酸化炭素を吸収して酸素を出していますということでしたので、そこ辺もこれに関連する、すごくわかりやすい説明やったかなと思っております。

そういうことで伺いましたが、何かその点について。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私、先ほどのまず答弁の中で、お間違えなったらいかんと思って、ちょっと訂正をさせていただきますけども。

まず、燃料等の削減額約1,000万という話をいたしました。これは、平成30年度の削減額でございます。それと、生ごみ等の施設の維持管理費、900万ちょっとという話しましたが、これは27年度から30年度までの総計が928万ということで、30年度では約220万ぐらいということでございます。

それと、バケツの経費につきましても、先ほど述べましたように、平成30年度は約2万2,000円ほどになっているというところでございますので、ここは訂正をさせていただきます。

それと、先ほどのCO₂の関係でございますが、要はこの一番わかりやすいのが、できた酸素を対馬の場合、特に今、森林等で吸収をしているというところでクレジットを発行しているところではございますけども、このことと、このクリーンセンターの分と一緒に考えていただければ若干困るなというふうに思っております。

このカーボンオフセットは、あくまでも企業等がどうしても二酸化炭素を排出せざるを、できるところ、例えば飛行機を飛ばすときに、飛行機も二酸化炭素を出しますので、その分をカーボンオフセットとして購入して、それが山林等で吸収されることで相殺をされるというのがカーボンオフセットの基本的な考え方でございますので、そこにつきましてはそのように考えてほしいというふうに思います。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） それと、炉の中が燃え過ぎるので、燃え過ぎたらいけないということで、クリーンセンターのほうでは、水道管を通して、ノズルを通して温度調整しながら水をまいていますということでございました。

いろいろ生ごみを入れたら燃えにくいから、炉が傷むんじゃないかという声も聞きますけれども、私が、かなり前なんですけど、うろ覚えですけども、焼却炉が燃え過ぎたら、水をまいてそれを調整していたということが記憶にありましたもんで、それを今度、クリーンセンターでお伺いしましたら、その水道管を通して、燃え過ぎる温度調整しながらノズルで水をまいていますよということでした。ということは、生ごみも必要なんですよね、燃え過ぎないようにですね。

それで、現在の生ごみ回収している生ごみも含めてクリーンセンターに持ち込まれる、家庭から持ち込まれる生ごみも含めまして、今のところ全然支障がありませんよと。許容範囲内でございますということでございました。思いがけない大きな生ごみが来ることは、それは大変なこと

ですけど、そういうことはもちろんできませんけども、今の状態では許容範囲内でございますという事でした。

この炉もつくるときは、もう15年前になりますけれども、この生ごみを回収するような事業は想像もしておられなかったと思うんですね。だから、今までずっと続いて出ている生ごみは許容範囲内ですから、生ごみをこのまま持ち込んでも炉が傷むちゅうことはないということでございまして、炉の耐用年数は15年間だそうでございます。今回、ことし、その耐用年数15年過ぎたので、炉は新しくしておりますという回答を得ておりました。

そういうことで、いろいろと調べたんですが、経費につきまして、今市長はバケツのことも言われましたけども、バケツは各家庭に3個配布されております。大きいバケツが2個、3,150円、小さなバケツ、これは油を入れるんでしょうけども、これが1個で1,155円、合わせて4,305円のバケツを今配布されているんですね。1,839世帯にですね。

そして、それをまた生ごみを入れて、それを出したら、バケツの中が汚いからちゅうて、資源に溶ける生ごみ専用袋をつくるということで、この前も話しましたが、それも1枚34円です。これも計算しますと、年間に900万ぐらい要るんですね。市長が目標とされている3,000世帯と計算しましてね。

なぜこんなにまで使って、そしてメインである堆肥もできないということになるのか、私は不思議でたまらないんですが。今までに使ったお金が、7年間使ったお金が約4億2,000万です。そして、その効果はどんなだったのか。今聞きましたが、メインの堆肥化はできてない。

それと、このまま事業を進めますと、毎年、年間4,400万ぐらい毎年要ります。そして、この堆肥ができたとしますね、皆様恩恵こうむるのは、堆肥ができて、それぞれ欲しいかと思いますが、これを利用される方がどのくらいおられるのか。そんなとをようと考えていただきまして、また決断をしていただきたいと思いますが。

この事業は、実証実験ということで、これは24年度に思い立たれた事業だということですが、なぜ今、7年、8年たとうかちゅうときに、何で初めてこの調査をされるんですかね。私で考えれば、私は9月議会で一般質問しました。それで、はたと気がついたんじゃないかなと私は思うんですけども、何で、実証実験だったら、3年、5年とかいって、その実験の効果ですか、そんなとを調べるべきじゃなかったんですか。そこ辺をお尋ねします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず1点目でございますけども、要はクリーンセンターの職員が、生ごみを焼却しても炉への影響は余りないというようなことを言われたということでございますけども、私どもちょっとお聞きしたんですが、その一方で、二酸化炭素の排出量は、その生ごみの分だけふえてしまうんですよということまで言うておりますというようなことでございますので、

このことについては御理解をお願いしたいというふうに思います。

それと、水を噴霧する設備だということで、これは、ガス化炉になっているからというようなことをごさいます、クリーンセンターの場合は500度から650度で燃焼をして、少しずつガスを発生させる仕組みだそうのごさいます。そういうことで、適切な温度の範囲が650度までというようなことをごさいますので、そこに至るときには水等を噴霧して抑えているというようなことをごさいます。

それと、このアンケート調査の結果も、今現在、途中経過でございすけども、出ているんですが、先ほどおっしゃいました生ごみの回収事業につきまして、賛成であるという方が65%、そして反対であるちゅう方が2%ということで、大方の市民の方々は、この生ごみの回収については賛成をしてくださっているというようなことをごさいますし、堆肥につきましても、今度新しく準備をしております袋でございすけども、この袋につきましても、1枚の30円程度から10円程度ならば利用してもよいという方が43%、そして有料ならば利用しないという方が約40%ということで、ここは拮抗していると。まだこれは中途でございすので、今後またさらに詳しい分析はしたいというふうに思っております。

それと、何で今ごろこういうアンケートをするのかということをごさいますけども、今まさに、冒頭の答弁でも申しましたように、COP25が開かれておりますし、今15歳の、あれフィンランドでしたかね、あの女性が、この二酸化炭素を抑制するために一生懸命に演説もされております。

こういうことも含めまして、我々が、50年に1度の雨が、この対馬においても3回も降るような状況は、何とかそれぞれ一人一人が努力をしながら、このことを少しでも防げるようにすることが、我々の責務だという思いでございまして、今後もこのことにつきましても、多少経費もかかることは事実でございすけども、続けてまいりたいというふうに考えているところでございす。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） アンケートの結果、賛成ちゅう声が高いということ言われましたけど、このことに対して、どれを対象に比較して賛成とか、反対とか言われているのかという、比較する材料も与えてやって、このアンケートをとるべきだったと私は思います。時間もちょっとありませんし、それはそれと、私はそのように判断します。

この前の一般質問したときに、長崎県下と福岡県下において、生ごみの回収している市はどこがありますかと聞いたところ、部長さんいわく、自治体は少ないですという回答でございすけども、少ないなら少ないなら、どこがしているのか、ちょっと教えてください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、平戸市、松浦市が北松北部クリーンセンターということで、ここも生ごみを回収しております。次に、諫早市、それから壱岐市においても生ごみを回収しております。

そのほか、福岡県では大木町やら、みやま市、それとまた、そのほか、熊本県でも1市2町、そして大分県でも日田市、宮崎県でも（「ちょっと済みません、もう時間がないから、私は福岡県と長崎県を聞いておりますので」と呼ぶ者あり）ああ、そうですか。福岡県が、一応こちらが調べた状況では2市ですね。そして、長崎県が4市ということでございます。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 今、長崎県内での壱岐市ということ、どうしても壱岐市を比較するんですが、壱岐市は本当にしていますか、自治体ですよ。はっきりします。私が今聞いているのは自治体ですからね。民間じゃないんですよ。そこ辺をはっきりして回答してください。まずそれですね。

それと、もう時間がないけ。生ごみを回収したこのアンケート用紙のこれは、5枚あります、これにかかった費用を大体幾らぐらいか教えてください。壱岐市に友達がおります。聞きましたが、してないですよ。

○議長（小川 廣康君） 市民生活部長、俵輝孝君。

○市民生活部長（俵 輝孝君） 済みません、こちらのほうが混雑をしております、まず壱岐市については、壱岐市は実施をいたしております。ただし、全市、全町、島民全市民とかいうことではなくて、あくまで壱岐市は事業系ごみの回収を主にやって、それを油かすとか、そういったものをまぜて液肥をつくる。全市民の生ごみ回収ではなくて、主に事業系ごみの回収を行って、生ごみの堆肥化をやっております。

それから、アンケートの経費ですかね。アンケートの経費につきましては、封筒とコピー用紙、印刷については職員のほう、役所のほうでやっておりますので、実質の経費は14万8,000円、物にかかる経費がですね。ただし、返送するものについて郵便代を負担するというので、20%の場合で29万円程度を概略はじき出しております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） この中で一番疑問に思うのは、委託業者の農協さんにこのアンケート用紙配るようになってます。これはどうしてですか。中身も含めまして、集計も含めましてされるんですか。

○議長（小川 廣康君） 市民生活部長、俵輝孝君。

○市民生活部長（俵 輝孝君） このアンケートの実施に当たりまして、部内で協議をいたしま

した。当初予算というか、うちの部の中の予算にこのアンケート調査の経費がないということで、どうしようかということで協議をいたしまして、あくまでも事業のアンケート、生ごみ回収に係る事業のアンケートということで、農協に支出をいたしております委託料の中からアンケートを実施しようということにしまして、農協と協議して委託料の中で経費として実施をいたしておりますので、返信先が農協のほうになっております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） ちょっと時間がありませんので、またこの件については、再度質問を違う時期にさせてもらいます。

まず第1に、委託業者にアンケート調査を依頼するという、私たち今まで聞いたことありません。それは、これで一応おさめます。

次は、対馬島誌の関係ですけども、1964年4月30日に発行されまして、ページ数にしまして952ページにわたって記録をされております。当初の計画は3年計画ということでされておりましたが、これが5年経過してようやくできたということでございました。

編集員の代表の方、賀島由己さんとおっしゃる方なんでしょうか、最後の言葉として、無理をして大変な大変な苦勞だったと思います、無理をして体を壊したということまで書かれておりました。本当に私たちが想像もしない、大変な大変な事業だと思います。

これを1ページあげますと、初めにちゅう形で、このタブレットに入れておりますが、宗武志さんの詩が言葉として詩というんですか、初めの言葉として残されております。ちょっと読み上げます。

「島も痩せたが友も痩せた。魚型を削りながら黙って潮を見る。だが、俺には夢がある、言
いさして友は笑う。深夜、世界図を開く、コンパスをとる、島を軸にぐるっと廻す。」
という、すばらしい、当時の心境を語られた言葉が載っておりました。

宗武志さんは、36代宗家の当主として、島主をつながれた方で、巖原小学校、中学校及び高校、対馬全島高校3高校の校歌を作詞されておられ、いまだに対馬市民の皆様が幅広く親しみを感じられておられるんじゃないかなと思っております。

この島誌に関しては、今さっきも言いましたように、ことしの市長と語ろう会の際に会員の方から出た要望なんですね。そのときに副市長さんが言われまして、もう55年もたったんですかねと。それで、自分は責任を持って教育長に伝えますということでございましたので、それからもう5カ月ぐらいたっております。その間、いろいろとお考えもあつたろうかと思ひまして、今回の質問に上げたわけでございますが。

だけど、大変な大変な仕事であっても、対馬の歴史というんでしょうか、絶対必要だと私は思

いますし、どのような形で、どのようにされるとか、全くわかりませんが、大変な苦勞だと思えますが、少し自分の考えとか、構想がございましたら、ちょっと教えていただけませんか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 私も、この新対馬島誌ですか、これを見せていただいたときに、すごいものをつくられたなというので、そのつくられたこと自体に感動いたしました。あのころの教育会の中にも、すばらしい研究者がいらっしゃったんだなというのを感じましたし、現在、あれがつかれるかといったときに、ちょっと現段階では厳しいなというのを感じております。

先ほども答弁の中で申しましたように、旧町時代に各町ごとに町誌がつくられておりますので、その中にも対馬の歴史とか、そういういろんな対馬島誌に重なるような部分も入っておりますので、ぜひそちらのほうを御活用いただきたいなというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 各町誌は、観光物産のふれあい処ですかね、あそこに行って私も見てみました。各町の町誌がずらりと並んでおりました。これは販売されているようで、金額にして五千二、三百万円から3,140円ぐらいまでの定価が載っております、一番古いのが美津島町、昭和53年ですか、今から考えたら41年間もうたっております。2番目が上対馬町が34年たっております。昭和60年、1985年につくられて、現在34年たっております。次が豊玉町誌でございます、これが1992年につくられておまして、もう現在27年。次が峰町誌でございますが、1993年につくられて、現在26年。次が1997年、厳原町誌でございます。これが現在でもう22年。最後が、2004年につくられました上県町誌が15年たっております。

いろいろまちまちなんですけれども、冒頭言いましたように、この対馬島誌つくられたときは、3年の計画でしたけども5年かかったということでございます。本当に大変な大変な仕事だろうと思います。どこが所管になって、どのようにするかは全くわかりませんが、これは絶対必要でありますので、そろそろ協議をしていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。

大変でしょうけど、教育長、音頭を取って、今は対馬島誌でしたけども、今度は対馬市誌という形になるかなと思うんですけれども、どうぞ、そこ辺を最後にもう一つお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 吉見議員、先ほど本の金額言いましたけど、訂正は必要ございませんか。

○議員（6番 吉見 優子君） 一応調べてまいりました。金額言いましょうか。

○議長（小川 廣康君） もう一回お願いします。先ほどは間違っていると思いましたので。

○議員（6番 吉見 優子君） 美津島町の分はもう在庫はありません。上対馬町は3,140円と、「歴史」の「史」と「料金」の「料」のいとへの「編」、これが5,230円でしたね。

それから、豊玉町誌が4,190円、それから峰町誌が5,230円、巖原町誌が4,400円と6,280円があります。

○議長（小川 廣康君） 時間になりました。先ほど万がついていたと思いますので。

○議員（6番 吉見 優子君） そういうことでございます。最後一言。

○議長（小川 廣康君） 最後お願いします。

○教育長（永留 和博君） 旧町時代の町誌も、合併何周年とか、そういう何かを記念をしてつくられておりますので、対馬市誌につきましても、合併何十周年とかそういう、何かのそういう記念すべき年にまた検討をされればなというふうに思っております。

○議員（6番 吉見 優子君） いろいろありがとうございました。これで終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、吉見優子君の質問は終わりました。

.....
○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をします。再開を11時10分からといたします。

午前10時50分休憩

.....
午前11時10分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

報告します。吉見優子君から早退の届け出があっております。

引き続き、市政一般質問を行います。15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 15番、清風会の大浦孝司でございます。

本日は、過去に1度、2点とも一般質問をしたことで、再質問ということになりますが、過去の取り扱ってきた対応について報告願いたいと思います。

まず、主要地方道巖原豆敷美津島線の美津島工区、ここは吹崎の地区になりますが、これに係る入会林野の整備について、せんだって産業建設常任委員会の折に、この内容の報告がございました。最終的に、この入会林野の整備については2地区あるんだと。箕形地区については、平成30年度に完了したと。もう一つ、加志の地区については、令和2年3月を目途に嘱託登記を完了する見込みであると、かように報告がございました。

先般、6月の定例会において、産業建設の委員長、大部委員長から、入会のことについて語っておりませんが、この道路の予算について、できる場所から取り組んでいけんかというふうな一つの要望事項があっていましたが、私、直接道路課のほうに問い合わせしましたところ、加志の入会林野が完了したことにならないから、用地の確保が全くできず、前に進めないというきつい言葉をいただきました。

それで、ここを一つ、私もひもといて調べましたら、平成23年の6月定例会で、このことを